

札幌の歴史 あれこれ No.10

今や196万人以上が暮らす街へと発展した札幌。ここでは、これまでの札幌の歩みを、さまざまな角度から見ていきます。

問い合わせ 広報課 ☎(11)2036

【生活用水の98%を供給する豊平川の歴史】

1871

豊平川に初めて橋が架かる

大雨が降ると勢いよく流れ、札幌の中心部を丸飲みしてしまう洪水を起こしていた豊平川。千歳方面へ向かう旅人を渡すために最初に架けた橋は、同年の水害ですぐに流されてしまった。



▲豊平川に架かった最初の豊平橋

1913

堤防が決壊して市街地中心部が浸水



出典:丸井今井百年のあゆみ(昭和48 株式会社丸井今井)

暴風雨によって豊平川が増水し、豊平橋が流出したほか、堤防が決壊して市街地中心部が浸水。浸水総面積は、札幌ドーム建築面積の約70個分となる118万坪、家屋5,858戸の被害が出た。

◀浸水した当時の丸井本店前

1971

河川敷を造成し公園などを整備

都市化が急激に進み、都市部を中心に緑地が減ったことを受けて、豊平川緑地を造る都市計画を策定。河川敷を整備し、広場をはじめ、野球場やテニスコートなどのある憩いの場となっていくた。



新型コロナウイルス感染症の影響で利用を制限している場合があります

◀全長390mの遊水路と遊具を設置した「ウォーターガーデン」

1972

水の確保や発電のための豊平峡ダムが完成

洪水から街を守るとともに、街の発展につれて増加する水や電力の需要に対応するため、豊平川上流にダムを建設。今では観光放流も行われ、観光名所の一つになっている。



▲アーチ型の構造をした建設工事中の豊平峡ダム

2011

豊平川に架かる新たな橋の計画に着手

札幌新道と環状通の渋滞を緩和するため、北1条・雁来通と南7条・米里通をつなぐ橋を新設。令和4年度の完成を目指し、現在も建設が進んでいる。



▲公募の結果、橋の名前は「北24条桜大橋」に決定